

「イソヒヨドリ *Monticola solitarius*」は、本来は標高 2,000m 以上の高地に生息する野鳥です。日本では海沿いに生息していて、「イソヒヨドリ（磯鶉）」の和名があります。しかし、近年生息範囲を都市や内陸に広げる傾向にあります。たとえば、八王子市周辺では、たくさんのイソヒヨドリを見かけるようになりました。

「ヒヨドリ」の名はありますが、本家ヒヨドリとは関係なく、ヒタキ科の野鳥です。オスとメスでは羽色が全くちがいで、メスは全体が薄いセピア色で、トラツグミに似ています。オスは濃い青の羽色に腹部がレンガ色なので、静止していても飛んでいても、よく目立ちます。

海辺の岩場を好む鳥なので、海食崖に囲まれた江の島でもよく見られます。写真の手前の灰色の岩は、「葉山層群・大山層」の砂岩、背後の茶色の部分は、武蔵野ローム層の一部です。イソヒヨドリだけに、イソいで撮ったのですが、ピントがイマイチでした。

(2025年3月中旬／神奈川県藤沢市江の島)

